

ブラジル留学中間報告書（一か月）

2018年9月4日

国際農業開発学科 江村藍弓

今年の8月から一年間サンパウロ大学のピラシカバ校(ESALQ)に留学しています。8月7日にブラジルに到着してはや一か月が経過しました。着いて早速授業が始まったため、初めてばかりの生活のなかでこちらの授業についていくことは簡単ではありませんでした。去年参加した短期留学でもお世話になった ESALQ の城田先生とともに可能な範囲を考えながらどの授業を取るべきか決めるところから始まりました。

私は森林、アグロフォレストリーを勉強したくてブラジルに渡航することを決めたので、ESALQ では”sistema de agroflorestal”というアグロフォレストリーの仕組みについて勉強する授業を取ることにしました。この授業は日本の大学と同じようにパワーポイントを利用して説明することもあれば、先生が生徒に質問を投げかけディスカッションのような形態をとることもあります。ブラジルの生徒は思ったことはその場ですぐ口にしますし、先生と対等な関係であるように感じます。数回、週末に行われるフィールドトリップもありそこではアグロフォレストリー農場を見学したりします。私も一回参加しましたが、農場主がどのようにアグロフォレストリー農場を築き上げたかを知ることができたり実際にフィールドを見ることができたりと、とてもよい経験でした。

こちらでは Republica と呼ばれる寮に住んでいます。基本的に6人～12人が住んでおり、女子寮と男子寮で分かれています。月の家賃と形態は寮によってまちまちですが、掃除や料理をしてくれるお手伝いの方がいるところもあればいないところもあり、私の寮はいないので自分たちで料理や洗濯、掃除など全てを行います。私の場合、日本では実家暮らしでほとんど料理などをしてこなかったので生活力がゼロからのスタートで始めは大変でした。一か月が経過して、少しずつ家事をこなせるようになりました。掃除は曜日で担当を決めて仲間たちと行います。みんなで助け合いながら暮らしていて、一体感があると感じます。

語学力の面ですが、日本では農大でポルトガル語の授業を一年間取ってはいたものの、基本的なことばかりで実践的ではなく、また専門用語などは勉強してこなかったため、すべてポルトガル語で行われる授業を完ぺきに理解できるまでにはまだ時間がかかるなど感じました。しかし寮の子や友達とは、彼らがもし英語や日本語を話せたとしても、できるだけポルトガル語で話すようにすることによって耳が聞くことに慣れ、話そうと努力できるので私はそうしています。ブラジル人は相手がポルトガル語を話せないと分かっているにもかかわらずゆっくり話すと頼めば親切に話を聞いてくれますし、わかり

やすいように話してくれます。

渡航して感じたことは、海外の国を知るためには短期間の渡航では足りないということです。その国を深く知るには文化、生活、経済状況を理解しなければならず、実際に現地の人と生活をしてみないと見えないことばかりです。私は高校生時代から海外での一年間の留学を希望しておりずっと望んでいたことですが、たまにカルチャーショックを受けることも少なくありません。さらに今わたしは寮という共同生活なのでお互いに嫌なことがあったとしたらはっきり直してほしいと言うことも必要になってきます。私はまだそれができないためもどかしい思いをすることもありますが、ブラジル人は人を干渉したりしないためそれがとても過ごしやすと感じます。

先月の8月は農大の海外移住研究部や世界展開力強化事業の短期留学生がESALQを訪れたりとても賑やかで、私たちも渡航して間もないですが、ピラシカバ市内を案内したりするのが楽しく、日本から訪問者が来てくれるのはとてもうれしく感じました。ピラシカバの日系ブラジル人会や学内ツアーなど短期留学生のプログラムに長期留学生も一緒に参加させていただき、とても充実した時間となりました。短期留学生の話聞くことで一年前同じプログラムに参加した自分と重ね合わせて初心に戻ることができ、さらに頑張ろうと感じます。

治安の面はとても心配ですが、今住んでいるピラシカバ市はサンパウロ州のなかでも田舎の方なのでそこまで危なくありません。しかし夜はとても暗いため一人で歩くことは避け、車などで友達に送ってもらうようにしています。農大会館を訪れる際や旅行の際にはサンパウロ市やほかの都市に行くこともあるため、より一層安全面には意識して、慣れてきたからといって油断しないよう心掛けたいと思います。

ある週末にはESALQの学生である友達の実家にて彼女の誕生日会が開かれたため参加しましたが、ブラジルならではの誕生日の祝い方や食事を楽しむことができ、とても貴重な経験でした。また、9月7日にはブラジルの独立記念日があり、ブラジルの一年間のなかでも重要な日の一つです。私たち長期留学生は城田先生にお誘いを頂き、ピラシカバの役場で行われる日本人移住記念の式典に参加させていただくことになりました。貴重な経験ですので有意義に過ごしたいと思います。この一年間はこちらの文化に大いに触れながら可能な限りブラジル人と同じ生活をする事で現地の人と溶け込めることを目標としていきます。ESALQには日系の学生も多く、日本の文化に興味を持つ人もいます。彼らに日本の文化や良いところを教えていければブラジルと日本の良い架け橋となるのではないのでしょうか。

まだこれから留学が本格的に始まりますが、まだまだ気を引き締めて、ますます成長していけるよう努力していきたいと思います。農大会館のみなさんや世界展開力強化事業担当者のお二人には大変お世話になっています。ありがとうございます。